

## 理科支援員配置事業

学 務 課

### 1. 目的

大学（院）や退職教員、地域人材等の有用な外部人材を、理科支援員として市内小学校5，6年生の理科授業等に配置し活用することで、理科の授業における観察・実験活動の充実及び教員の資質向上を図ることを目的とする。

### 2. 内容

#### (1)配置する学校

- ・市内小学校(13校)

#### (2)対象学年及び教科

- ・5，6年生の理科を原則とする。ただし、学校の実態や課題に応じて他の学年も対象可とする。

#### (3)理科支援員のサービス監督等について

- ・市一般非常勤職員として雇用する。理科支援員のサービスについては別「理科支援員の手引き」による。

#### (4)理科支援員の業務

- ・5，6年生の理科授業における学習支援
- ・観察や実験等の実施支援（器具や薬品等の取扱に関する助言含む）
- ・観察や実験等の準備及び片付け
- ・理科室、理科準備室の環境整備
- ・観察や実験等の計画立案や教材開発の支援
- ・観察や実験方法等及び理科授業の進め方についての提言や助言

### 3. 実施状況

現在市内13小学校において、5，6年の全学級において年間10時間の配置を計画（5月～1月）して実施している。今年度は、昨年度（平成21年度）に引き続き、4人の理科支援員を雇用し、各学校の配置曜日を決め、一人当たり2校から4校を担当してもらい事業を進めている。支援員は、教員免許状や気象予報士、放射線取扱主任者、作業環境測定士等、教育や理科学習に関わる専門的な技能や資格を有しており、小学校における理科学習支援に貢献し、小学校からの評価も高い。

なお、23年度は、配置時間を1.5倍に増加し、より一層の学習支援の充実を図っています。

### 4. 内部評価

観察・実験の充実を図り、発展的な授業内容の教材を取り入れ、授業の質の向上や教育の質の向上につながる授業であり、今後も継続実施する。

## 5. 外部評価委員会の意見

必要性		有効性		効率性		総合評価	
<input checked="" type="checkbox"/> 非常に高い	<input type="checkbox"/> ある程度認められる	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に高い	<input type="checkbox"/> ある程度認められる	<input checked="" type="checkbox"/> 非常に高い	<input type="checkbox"/> ある程度認められる	<input checked="" type="checkbox"/> 現行どおり継続	<input type="checkbox"/> 改善し,継続
<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> どちらとも言えない	<input type="checkbox"/> 休止又は縮小	<input type="checkbox"/> 民間に移管
<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> あまり高くない	<input type="checkbox"/> 廃止	<input type="checkbox"/> 事業完了
<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い	<input type="checkbox"/> 非常に低い		

○事業の趣旨は自由分理解できるもので、継続すべきである。予算上認められているのであればさらに支援教員の増加が望ましい。小学校上級ぐらいの時に理科のおもしろさを体験的に理解できたことで児童の将来に大きな影響を与えることにもなると考える。

なお、「目的」の末尾にある「教員の資質の向上を図る云々」の文言は、適切を欠く表現ではないか。

○興味を持ち、理解し易い理科の観察や実験の充実を図るいわゆる授業の向上事業であり、必要性・有効性は非常に高いと認められる。授業準備（実験準備）や実験器具等の片付けの面からも担任教員の負担軽減にもつながり、効率性は非常に高く、現行どおり継続すべきと認められる。

○観察・実験が充実し、理科離れを止める一手段としては、有効であると思われます。授業の充実が図られることは認めますが、（文章表現上の事だとは思いますが）「教員の資質向上」という文言は「？」と思います。

担当教員と支援員との事前の綿密な話し合いのもとに授業が実施されることを望みます。

## 6. 外部評価に対する改善等の取り組み

平成 21 年度は、支援員と理科専門の講師が配置され、模擬授業等が展開され教員の資質向上が図られました。

しかし、平成 22 年度からは、理科専門講師の配置がなくなり支援員の配置だけとなったが、事業の趣旨文言に「教員の資質の向上を図る」という文言が残ってしまった。よって現在の支援員の業務内容を踏まえ、「教員の資質の向上を図る」という文言を削除します。

事業については、支援員と教員が綿密な事前打合せを行い、理解し易い理科の授業を展開していきます。